

平成 25 年 5 月 25 日

学校法人 至学館 平成 24 年度 事業報告書

I. はじめに

平成24年度は、大学、短期大学部での男女共学化並びに学部改組から3年目となった。入学者の男子学生比率も40%程度となり、完成年度に向け順調に推移している。大府キャンパスでは、平成23年度に着工した学飲ホールが7月に完成し、学生の憩いの場として、また、オープンキャンパスなどのイベント会場としても大いに活用されている。さらに、第一体育館の耐震改修工事が終了し、学園すべての主要施設で耐震補強工事を終了することができた。

また、ロンドンオリンピックのレスリング競技では、小原選手、吉田選手、伊調選手ら3人の卒業生がそろって金メダルを獲得したことに加え、吉田選手が国民栄誉賞を受賞するなど、卒業生の活躍が光る年となった。

一方、高等学校では、平成24年度受験生が3,166名と増加し、近年例のない600名を超える生徒を迎えた。これに対して、43クラス分の普通教室を確保するために、特別教室から普通教室への転用、教員スタッフの拡充を図るなど、ソフト・ハード両面での整備を進めた。

さらにロンドンオリンピックのフェンシング競技に、附属高等学校出身の中山選手が1年後輩の伊調選手と共に出場するなど、設置校の枠を超え、学園全体としても輝かしい成果を得ることができた。

幼稚園においては、老朽化した屋外遊具施設を一新し、新たに「キッズランド」として竣工した。これにより、園児たちがより安全に、遊びを通した体作りができる環境が整った。

以上のように、各設置校での運営状況は概ね順調であるものの、本法人の財政においては、「将来の大型財政需要に備えた資金の確保」、「既設老朽施設設備の修繕等経費の確保」、「教職員の人件費の確保」というかねてからの課題がある。この課題を踏まえつつ、各設置校における教育の質の向上、学生、生徒、園児の募集活動に今後も注力し、着実に歩みを進めていく所存である。

II. 平成 24 年度 主要事業の執行状況

1. 学部改組及び男女共学化への移行状況について 〈大学及び短期大学部〉

平成 22 年度に実施した改組及び共学化については、後掲のVI.「設置校別学生数等の推移一覧表」に示すとおり、概ね順調な学生確保が行われている。また、児童学科、アジア学科では、平成 24 年度をもって在学生全員が卒業し、平成 25 年 4 月には人文学部の廃止手続きを行ったところである。また、男女共学化については、入学者に占める男子比率は大学、短大全体で約 38% となっている。

2. 入学募集状況について 〈設置各校〉

〈大学及び短期大学部〉

平成 21 年度より経営活性化事業として戦略的學生獲得経費の予算措置を行っているが、平成 24 年度も継続して広報活動への重点的な予算配分を行っており、平成 25 年度入学生募集においても順調に志願者・入学者数（VI.「設置校別学生数等の推移一覧表」参照）を確保することができた。なお、大学院、短大専攻科については、入学定員の未充足が続いており、課題となっている。

〈高等学校〉

校歌に新しい風を吹き込んだ「夢追人」と、男子硬式野球部の甲子園初出場などが話題となり、平成 24 年度の生徒募集では大幅な志願者の増加があり、603 名の新入生を迎えることとなった。

平成 25 年度の募集でも、入試における成績基準の引き上げを実施した中で、予想を上回る 499 名の入学生を確保することができた。今後もこの志願傾向を持続できるよう、教育活動、募集活動に力を入れていくと共に、適正な生徒数の管理も行っていく。

〈幼稚園〉

長年、比較的安定的な園児募集状況の続いた幼稚園だが、平成 25 年度の園児募集においてはわずかながら入学定員充足率が 100%を下回る状況となった。要因としては、近隣他園との競合、幼児数の減少、経済状況の悪化などが考えられるが、改めて、本園の強みである教育力のさらなる向上や、地域との連携強化、さらに大学との連携により魅力ある園づくりを進めていく。

3. 確かな学力の育成（ワンランクアップの教育基盤の創出）について〈高等学校〉

平成 15 年度より、具体的な数値をあげて目標の達成度を可視化してきた。その中で特に基本的な生活習慣を定着させ、自律に基づく行動力を育成することを最重要課題と位置付けた。

平成 24 年度は、不登校による特別専願生徒を含めた退学率は 2.43%となり、目標を達成することができた。さらに出席率 97.5%、遅刻は 1 日クラス平均 0.8 人となり、基本的な生活習慣の定着については、一定図ることができたと分析している。

一方、自ら学ぶという行動規範は、2 年次に英検準 1 級合格、留学コースのクラス平均で TOEIC643.6 点と結果が出始めている部分もあるが、考査前の自宅学習時間が目標 1 日 100 分以上に対して、90.4 分と目標に達しておらず、「学習方法がわからない」と答えた生徒が、未だ 5.0%いることを直視しなければならない。

これは、進路指導にも直結している大きな課題であり、大学進学がすべてではないが、高校で 3 年間学んだことの結果として、大学入試センター試験や一般入試での合格者が非常に少ないことは、確かな学力の育成がまだ発展途上にあることを示していると考えている。

平成 25 年度は、この反省をもとに引き続き取り組んでいきたい。

4. ディプロマ・カリキュラム・アドミッションポリシーの制定について〈大学及び短期大学部〉

自己点検・評価活動の一環として、標記各ポリシーの策定に取り組んでいる。各ポリシーの作成は、各教育課程をはじめ学生募集、学生指導、進路支援などの各場面における指針となるものであり、内外への浸透を図っていく。各ポリシーの策定にあたっては、自己啓発委員会を中心として、学科、各種委員会、教授会など各組織で検討を行っており、平成 25 年度も継続していく。

5. 教職支援室の設置について〈大学及び短期大学部〉

教職を志す学生をサポートする拠点として教職支援室（1000 号館 1F）を設置した。同室は、学習支援や各種情報の提供、学校ボランティアの機会提供等を行うことで、教員採用試験の合格率向上はもとより、質の高い教員養成を目的としている。スタッフ 1 名を配置し平成 25 年 4 月に開室したが、すでに積極的な学生の利用がみられ、今後の成果に期待が寄せられている。主な取扱事項は次のとおりである。①初年次教職課程履修者の個別面談の実施 ②教職課程における履修カルテ作成及び修正指導 ③教職課程履修者の学習相談及び指導 ④学校ボランティアの派遣・指導 ⑤一般教養に関する講座等の準備及び実施等

6. 女子硬式野球部の設立〈高等学校〉

大学の女子硬式野球は、平成 17 年度に正式に愛知県大学野球連盟に加入し、女子のみのチームが男子と硬式で試合をするという画期的なスタートを果たした。現在では、男女共学化のた

め、男女分離した中で積極的な活動を展開している。国民的スポーツである野球はただ観るだけでなく、「野球をやりたい」という女子中学生、高校生の声が大学に寄せられ、高校に女子硬式野球を設立することとなった。しかし、名古屋キャンパスは、男子硬式野球をはじめ、女子ソフトボール、男女ハンドボール、男女陸上競技が200Mトラック1面のグラウンドを時間交替で使用する状況であった。さらに硬式ボールとバットを使用することは常に危険と隣り合わせであり、多くの問題を解決しなければならなかった。

そこで、指導体制も確立している大府キャンパスの教職員各位の協力、尽力により大学生と共に練習する環境を整え、スタートすることとなった。

平成24年度は5名の部員を迎え、高校の生徒会規程により同好会からスタートし、平成25年度に22名在籍となり、正式な部に昇格している。なお、3名の遠方者は大学学生寮で生活しながら練習や勉強に励んでいる。

7. 防火・防災関連諸規程の整備及び、総合訓練の実施、防災備蓄品の確保等について

〈大学及び短期大学部〉

東海地震、東南海地震などの災害発生に備え、防火・防災関連の諸規程を整備し、学内の防火・防災体制に関する基本事項を定めた。また、規程に基づき学内に自衛消防組織を編成し、災害時の対応について具体的な計画の策定や訓練、講習会を実施した。併せて有事の際に学生、近隣住民の避難所としての機能を果たせるよう、食糧、生活用品を中心に防災備蓄品の見直しと確保をした。また、大地震を想定した総合訓練を学生、教職員全員で実施した。今後、こうした取り組みは幼稚園や地域とも連携して継続的に進め、平成25年度も年2回の総合訓練を計画する。

8. 地域連携、社会貢献について 〈大学及び短期大学部〉

従来より大府市との包括協定のもと地域連携を推進しているが、平成24年度についても各種の連携事業が実施された。新たな試みとしては、大府市の推進する「ウェルネスバレー構想」の推進に、健康スポーツ科学科の学生が参加したほか、市内の社会福祉法人が運営する障害者の働くカフェの看板メニューを栄養科学科学生が考案するという取り組みを行った。

また、8月に行われたロンドンオリンピックでは、小原選手、吉田選手、伊調選手ら卒業生の活躍があり、大府市行政の方々や、地域の方々と共に学内での応援観戦を行い、3選手の金メダル獲得に沸き上がった。

9. 文部科学省「大学スポーツ研究活動資源活用事業」の受託 〈大学〉

昨年度に引き続き、文部科学省が行う、トップアスリート養成に関する大学スポーツ研究活動資源の活用を目的とする事業を受託し実施した。平成24年度は、健康科学研究所のアスリートサポートシステムによるレスリング部に対するサポート・研究を主要事業とした。

10. 施設・設備関係事業

(1) 学歓ホールの建設工事〈大学及び短期大学部〉

平成23年度に着工した学歓ホールが7月に完成し、学生の憩いの場として、また、オープンキャンパスなどのイベント会場としても大いに活用されている。同ホールは、会議室、同窓会室、コンビニ、畳スペース、書庫などを有している。(総工費約2億3,500万円)

(2) 第一体育館耐震改修工事〈大学及び短期大学部〉

第一体育館の耐震補強工事を実施した。同時に老朽化した床面の張替や、更衣室、シャワールームなどの整備も行った。この工事をもって、学園の保有する主要施設全ての躯体耐震補強工事が完了した。(総工費約1億5,000万円)

(3) キッズランドの整備<幼稚園>

園舎北側にあった屋外遊具施設の老朽化が進んだため、新たに「キッズランド」として周辺環境を含めて整備工事を行った。平成 25 年 2 月に完成し、安全かつ開放的な遊具場となり、園児・保護者からも好評を得ている。(総工費約 2,600 万円)

(4) 普通教室、特別教室の空調整備<高等学校>

新入生の急増でクラス数が 43 となり、普通教室が不足する事態となった。そこで平成 23 年度中に急遽、普通・特別教室の整備を行って、新年度をスタートさせることができた。

その後、この転用に伴い、空調施設の新設または老朽化したものの更新を行った。(総工費約 900 万円)

(5) その他の施設設備関係事業

<大学及び短期大学部>

- ・ S.S.C. (スポーツサイエンスセンター)の老朽化に伴う、屋上、外壁の防水工事 (大規模修繕工事Ⅱ期) を平成 23 年度に続き実施した。(総工費約 3,400 万円)
- ・ 図書館の空調設備整備を実施した。(総工費約 2,900 万円)

<大府キャンパス>

- ・ 防災対応の一環として緊急放送設備の整備を行った。(総工費約 1,200 万円)

Ⅲ. 財政状況

1. 近年の消費収支状況

●平成 23 年度決算値

(単位：千円)

	法人	大学	短大	高校	幼稚園	全体
帰属収入	753	1,609,920	460,581	1,176,607	175,400	3,423,262
基本金組入額	0	-72,912	-6,960	-114,538	0	-194,409
消費収入の部合計	754	1,537,009	453,621	1,062,069	175,400	3,228,852
消費支出の部合計	123,289	1,610,215	364,041	1,017,305	157,463	3,272,314
帰属収入－消費支出	-122,535	-295	96,540	159,301	17,937	150,948
消費収支差額	-108,119	-73,206	89,580	44,763	17,937	-43,462
基本金取崩額	155	0	0	0	717	872

※千円未満を四捨五入し表示。それに伴い各部門の合計と全体での不一致あり（以下同）

●平成 24 年度決算値(案)

(単位：千円)

	法人	大学	短大	高校	幼稚園	全体
帰属収入	357	1,713,566	476,612	1,230,199	207,717	3,628,451
基本金組入額	-120	-377,079	-79,268	-18,216	-31,428	-506,112
消費収入の部合計	237	1,336,487	397,344	1,211,983	176,289	3,122,340
消費支出の部合計	110,205	1,696,820	379,430	1,046,268	191,804	3,424,527
帰属収入－消費支出	-109,847	16,746	97,183	183,931	15,913	203,924
消費収支差額	-109,968	-360,334	17,914	165,715	-15,515	-302,188

●平成 25 年度予算値

(単位：千円)

	法人	大学	短大	高校	幼稚園	全体
帰属収入	350	1,763,976	451,653	1,211,362	172,873	3,600,214
基本金組入額	775	-107,586	-8,124	-111,585	-2,374	-228,894
消費収入の部合計	1,125	1,656,390	443,529	1,099,777	170,499	3,371,320
消費支出の部合計	143,501	1,724,919	389,824	1,110,018	156,484	3,524,746
帰属収入－消費支出	-143,151	39,057	61,829	101,344	16,389	75,468
消費収支差額	-142,376	-68,529	53,705	-10,241	14,015	-153,426

2. 平成 24 年度決算状況について

平成 24 年度の財務状況は、帰属収入が前年度比、約 2 億 500 万円増の約 36 億 2,800 万円となっている。このうち、学生生徒納付金収入に係る変動分が約 1 億 8,700 万円（大学約 8,000 万円増、短大約 1,100 万円増、高等学校約 9,900 万円増、幼稚園約 400 万円減）となっており、これは、後掲のⅥ.「設置校別学生数等の推移一覧表」の在籍者数推移の傾向と一致するものである。

一方、支出面では、消費支出が前年度比、約 1 億 5,200 万円増加し、34 億 2,500 万円となっている。これは、大府キャンパス第一体育館の耐震改修工事に伴う修繕経費支出の増加（約 7,800 万円）や、学歓ホールの建設及び高額リース物件の発生に伴う減価償却額の上昇（約 3,500 万円〈教育研究経費〉）、人員増による人件費の増加（約 3,600 万円）などが主な要因となっている。また、基本金組入額については、学歓ホールの建設など大規模な施設設備投資があり、前年度比、約 3 億 1,200 万円増加し、約 5 億 600 万円の組入れが発生している。

これらにより、帰属収支差額は、前年度より約 5300 万円増の 2 億 400 万円の収入超過となっているものの、基本金の組入れを考慮した消費収支差額は、約 2 億 5,900 万円悪化し、3 億 200 万円の支出超過となった。

以上のように、全体としては、収入は概ね順調な伸びを見せているものの、平成 24 年度単年度では、施設設備投資費の増大により収支は大きく悪化している。また、人件費をはじめ、経常経費も年々増加傾向にあり、これらは、喫緊の課題として引き続き対応策を講じていく必要がある。

IV. 人事関係

1. 教職員数

専任教職員数推移（嘱託職員含／各年度 4 月現在）

		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
教員	大学	60	62	61	60	59	56	56
	短大	16	14	14	14	14	13	14
	高校	57	58	61	63	66	69	73
	幼稚園	14	14	14	14	14	14	14
	小計	147	148	150	151	153	152	157
職員	大学	27	29	30	29	36	40	38
	短大	6	6	6	6	9	8	8
	高校	10	10	10	7	7	8	9
	幼稚園	2	2	2	2	2	1	1
	法人	4	4	4	4	4	4	3
	小計	49	51	52	48	58	61	59
合計		196	199	202	199	211	213	216

V. 各校状況（平成 25 年 5 月現在）

1. 設置学校

至学館大学大学院——— 健康科学研究科

至学館大学 ——— 健康科学部 ——— 健康スポーツ科学科
 ——— 栄養科学科
 ——— こども健康・教育学科

至学館大学短期大学部 ——— 体育学科
 ——— 専攻科(アスレティックトレーナー専攻)

至学館高等学校 ——— 全日制課程 ——— 普通科
 ——— 商業科
 ——— 家政科

至学館大学附属幼稚園

VI. 設置校別学生数等の推移一覧表

		大学																														
		大学院			健康科学部															人文学部										合計		
		健康科学研究科		計	健康スポーツ科学科					栄養科学科					こども健康・教育学科					計	児童学科					アジア学科					計	
年度	年次	1年	2年		1年	2年	3年	4年	小計	1年	2年	3年	4年	小計	1年	2年	3年	4年	小計		1年	2年	3年	4年	小計	1年	2年	3年	4年			小計
平成23年度 (5/1)	定員	10	10	20	120	120	150	130	520	80	80	80	80	320	60	60			120	960			60	60	120			40	60	100	220	1,200
	現員	5	9	14	155	156	148	134	593	77	71	58	63	269	71	63			134	996			27	53	80			5	7	12	92	1,102
	充足率	50.0%	90.0%	70.0%	129.2%	130.0%	98.7%	103.1%	114.0%	96.3%	88.8%	72.5%	78.8%	84.1%	118.3%	105.0%			111.7%	103.8%			45.0%	88.3%	66.7%			12.5%	11.7%	12.0%	41.8%	91.8%
平成24年度 (5/1)	定員	10	10	20	120	120	150	150	540	80	80	80	80	320	60	60	75		195	1,055				60	60			40	40	100	1,175	
	現員	6	5	11	155	151	184	146	636	88	75	78	59	300	66	69	63		198	1,134				26	26			5	5	31	1,176	
	充足率	60.0%	50.0%	55.0%	129.2%	125.8%	122.7%	97.3%	117.8%	110.0%	93.8%	97.5%	73.8%	93.8%	110.0%	115.0%	84.0%		101.5%	107.5%				43.3%	43.3%			12.5%	12.5%	31.0%	100.1%	
平成25年度 (5/1)	定員	10	10	20	120	120	130	130	500	80	80	80	80	320	60	60	75	75	270	1,090											1,110	
	現員	4	6	10	153	150	174	185	662	88	84	80	79	331	74	64	68	60	266	1,259											1,269	
	充足率	40.0%	60.0%	50.0%	127.5%	125.0%	133.8%	142.3%	132.4%	110.0%	105.0%	100.0%	98.8%	103.4%	123.3%	106.7%	90.7%	80.0%	98.5%	115.5%											114.3%	

大学定員・現員には編入学生を含む

		短期大学部						高等学校 普通科 家政科 商業科				附属幼稚園				全 体				
		体育学科			専攻科			計												
年度	年次	1年	2年	小計	1年	小計	1年		2年	3年	計	年少	年中	年長	計	大学	短大	高校	幼稚園	総計
平成23年度 (5/1)	定員	120	120	240	36	36	276	440	440	440	1,320	96	105	105	306	1,200	276	1,320	306	3,102
	現員	154	138	292	9	9	301	465	430	394	1,289	104	102	103	309	1,102	301	1,289	309	3,001
	充足率	128.3%	115.0%	121.7%	25.0%	25.0%	109.1%	105.7%	97.7%	89.5%	97.7%	108.3%	97.1%	98.1%	101.0%	91.8%	109.1%	97.7%	101.0%	96.7%
平成24年度 (5/1)	定員	120	120	240	36	36	276	440	440	440	1,320	96	105	105	306	1,175	276	1,320	306	3,077
	現員	148	148	296	15	15	311	603	455	426	1,484	96	103	100	299	1,176	311	1,484	299	3,270
	充足率	123.3%	123.3%	123.3%	41.7%	41.7%	112.7%	137.0%	103.4%	96.8%	112.4%	100.0%	98.1%	95.2%	97.7%	100.1%	112.7%	112.4%	97.7%	106.3%
平成25年度 (5/1)	定員	120	120	240	36	36	276	440	440	440	1,320	96	105	105	306	1,110	276	1,320	306	3,012
	現員	155	148	303	15	15	318	499	584	445	1,528	94	100	107	301	1,269	318	1,528	301	3,416
	充足率	129.2%	123.3%	126.3%	41.7%	41.7%	115.2%	113.4%	132.7%	101.1%	115.8%	97.9%	95.2%	101.9%	98.4%	114.3%	115.2%	115.8%	98.4%	113.4%